



最優秀賞

調査・計画部門



東京都立松沢病院のランドスケープと長期的な取り組み

株式会社愛植物設計事務所
 山野秀規・山本紀久・橋本恵・浦澤柚花・倉田香織・鈴木美枝子
株式会社メディカルマネジメント松沢
 清水律子・有馬武郎
東京パワーテクノロジー株式会社
 池田真悟・小林将史

松沢病院の歴史は古く、明治12年(1879)設立の東京府癲狂院(テンキョウイン)から始まり、現存する公立病院としては日本最古の精神科病院です。2007年に東京都のPFI事業がスタートし、約5年をかけて老朽化した建物の解体と集約・新設が進められ、それと並行して広大な既存緑地の再編を行いました。

緑地の再編では、既存の緑地・土地利用の特性と新たな土地利用特性を重ねて「街」「里」「山」の3つのランドスケープゾーンとコンセプトを設定し、これに沿った自然環境・景観を形成することとしました。長い歴史を持つ病院敷地内には、高木だ

作品概要

作品名——東京都立松沢病院のランドスケープと長期的な取り組み
 所在地——東京都世田谷区上北沢2-1-1
 発注——東京都立松沢病院
 運営管理——メディカルマネジメント松沢
 計画・設計・監修——愛植物設計事務所
 モニタリング——愛植物設計事務所
 施工——東京パワーテクノロジー
 緑地管理——東京パワーテクノロジー
 施工期間——外部空間整備:2009年~2011年
 部分改修ほか:2012年~継続中
 規模——敷地面積 約18.7ha、緑地面積 約8.0ha
 主要施設——(主な建築物)本館診療棟・社会復帰病棟・リハビリテーション棟・医療観察法病棟・職員住宅ほか
 (外部空間)樹林地・草地・庭園・加藤山将軍池・駐車場・グラウンドほか

作品評

本作品は、創設143年の歴史を持つ公立総合病院のランドスケープ計画である。

建物の再整備と緑地の再編が順次進められているが、精神科を主体とする病院であるだけに、敷地の6~7割を占める広大な緑地を、患者の視点に立ってどのように取り扱っていくかが大きく問われる業務である。

応募者はこの課題に対して、「人工的な街の緑・半自然の里の緑・自然的な山の緑」の3つの緑地ゾーンを設定し、質の異なるこれらの緑が有機的に結びつく新しい緑の構造を示している。

また、各緑地ゾーンを進める庭園の整備、大樹の活用、雑木林の創出・再利用、桜の更新、憩いの場づくりなどにおいて、様々なランドスケープ手法を駆使した計画内容が示されており、全体として秀逸な作品に仕上がっている。

加えて、説明資料も文章・図面・写真がわかりやすくマッチングされた構成となっており、これらの点が総合的に評価され最優秀賞となった。



①既存大樹を活かしたエントランス ②街・里ゾーンに創出した紅葉庭園 ③里ゾーンの梅林 ④山ゾーンの既存樹林と加藤山将軍池 ⑤景観・保全対象種・コドラートなどのモニタリングを継続 ⑥定期の協働巡回で順応的な植栽管理を実現 ⑦幼木植栽から育成した雑木林も間伐を行うまでに充実

けでも約3400本もの樹木がありましたが、再編は既存樹木や緑地を可能な限り保存しながら行い、建物が集約された後に生まれる空地には、新たな緑地・樹群の創出や既存樹林を改善・補完する植栽を行いました。

一方、本事業の特性として、整備後も運営管理を約15年に渡って行う長期事業であることが挙げられます。そこで「長期事業であることを活かし、再編した緑の“質”の向上を図ること」を、もう一つのコンセプトとして事業に取り組むこととしました。

長期的な取り組みの基礎データとするため、整備前から実施している「景観モニタリング」や「保全対象種のモニタリング」、「コドラート調査」などの基礎調査を継続し、整備後の景観・自然環境の把握と評価を続けています。

この各種基礎調査をもとに、緑の機能や景観、自然環境など様々な面で質の高い緑を実現するため、現地での「協働巡回」を定期的実施して管理内容の調整・最適化を図り、順応的な植栽管理を実現しています。

また、保全・創出した樹林・樹木の更新や経年変化に合わせた改善計画、将来を想定した景観木の補植など、長期的に関わることでしか実現できない様々な取り組みを続けています。

運営管理の開始から10年が経過しましたが、計画段階から続く運営管理者・設計者・管理作業者の協働体制が、これら長期的な取り組みを支えた原動力であったと考えます。

今後も協働体制で取り組みを積み重ね、歴史ある松沢病院の緑を良質な状態で次代へ引継ぎたいと思います。

調査・計画部門